



2019年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年5月9日

上場会社名 ダブル・スコープ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6619 URL https://w-scope.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 崔元根
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 大内秀雄 (TEL) 03-5436-7155
 四半期報告書提出予定日 2019年5月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年12月期第1四半期の連結業績(2019年1月1日～2019年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年12月期第1四半期	2,601	21.8	△1,316	—	△1,404	—	△1,202	—
2018年12月期第1四半期	2,136	△0.7	△172	—	△238	—	△175	—

(注) 包括利益 2019年12月期第1四半期 △1,686百万円(—%) 2018年12月期第1四半期 △1,942百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年12月期第1四半期	△38.41	—
2018年12月期第1四半期	△5.61	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年12月期第1四半期	50,616	16,079	31.7
2018年12月期	47,496	17,844	37.5

(参考) 自己資本 2019年12月期第1四半期 16,047百万円 2018年12月期 17,813百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年12月期	—	0.00	—	2.50	2.50
2019年12月期	—	—	—	—	—
2019年12月期(予想)	—	0.00	—	2.50	2.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年12月期連結業績予想(2019年1月1日～2019年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	6,500	58.7	△200	—	△500	—	△500	—	△15.99
通期	17,500	100.4	800	—	400	—	300	—	9.6

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年12月期 1 Q	31,299,600株	2018年12月期	31,299,600株
② 期末自己株式数	2019年12月期 1 Q	302株	2018年12月期	223株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2019年12月期 1 Q	31,299,340株	2018年12月期 1 Q	31,198,066株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(1) 経営成績に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

四半期決算補足説明資料は2019年5月9日(木)に当社ウェブサイトに掲載予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
3. 補足情報	8
(1) 販売の状況	8
(2) 設備投資の予想値	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間の世界経済は、米中貿易摩擦の影響が各地域で始まる状況となり、好況を継続してきた米国でも景気の停滞感が出始めております。一方、欧州経済では、製造業の業況悪化が進み景気減速傾向が明確となっております。中国経済においては、今後景気対策の本格化が見込まれる一方で輸出の停滞に伴い、経済成長率は緩やかに減速する傾向が続いております。

このような経済環境の中、当社グループの主力事業であるリチウムイオン二次電池セパレータ事業におきましては、スマートフォンを中心としたモバイル機器用途及び電動工具やコードレス家電向けパワー系電池用途を中心とした民生市場はともに安定成長が継続しております。また、EV（電気自動車）やHEV（ハイブリッドカー）といった輸送機器用途では、欧米自動車メーカーによるEV新モデルの発表も相次ぎ、これに対応すべく主力電池メーカーの量産供給が急増しております。

こうした顧客需要の増加を睨み、当社では製造能力の増強を継続しており、主要顧客向け民生用途電池向けの供給量を安定成長させております。更に、一昨年以來、新規輸送機器用途案件の量産開始に向け設備投資、製品開発及び製造ライン承認等の先行投資を進めてまいりましたが、当第1四半期より一部の機種において量産出荷を開始するに至りました。これらの結果から当第1四半期連結売上高は、2,601百万円（前年同四半期比21.8%増）となりました。

地域別には、韓国向け売上高において、従来からの主要顧客であるLG CHEM.グループの需要の伸びに加え、昨年より量産販売を開始していたSamsung SDIグループ向けの販売も拡大しており、1,678百万円（同60.2%増）となりました。中国向けの売上高は引き続き債権回収を優先しながら継続していることから341百万円（同55.8%減）に留まりました。また、日本顧客向け販売に関しては民生用途需要の安定的な伸びから509百万円（同62.0%増）となりました。

営業利益においては、昨年来継続している輸送機器案件のサンプル費用及びライン承認のための稼働費用の研究開発費が前年同四半期比約3億円増加した他、人件費の増加約3億円、減価償却費の増加約2億円、その他固定費の増加等約3億円により、営業損失1,316百万円（前年同四半期は172百万円の営業損失）となりました。

製造の状況に関しましては、昨年下期に据え付けを完了したW-SCOPE CHUNGJU PLANT CO., LTD.（以下、WCP）の累計第10号、11号成膜ラインにおいて主要顧客向け技術承認用サンプルの製造に取り組みながら、量産販売用の生産も開始するに至りました。更に、WCPにおいては累計12号、13号成膜ラインの据え付けに取り組んでおり本年下期に完工の予定となっております。

営業外費用は支払利息などがあり、結果として、税金等調整前四半期純損失は1,404百万円（前年同四半期は税金等調整前四半期純損失229百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は1,202百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失175百万円）となりました。

当第1四半期連結累計期間の平均為替レートにつきましては、米ドルが110.09円、1,000韓国ウォンが97.8円となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの主力事業であるリチウムイオン二次電池用セパレータ事業におきましては、大手電池メーカーの輸送機器用途リチウムイオン電池の生産が急速に拡大しており、主要電池部材であるセパレータの需要も大きく伸びております。更に民生用途でも、高付加価値製品の需要は安定成長しており当社主要顧客の需要は旺盛となっております。このような市場環境から、リチウムイオン二次電池用セパレータ市場は引き続き成長が期待されます。

このような状況の中、当第1四半期に量産出荷を開始した輸送機器案件は、第2四半期以降に出荷が本格化する計画となっております。これに伴い売上高の安定増加が見込まれると同時に、営業利益が黒字に転ずる見通しとなっております。

輸送機器案件ではコーティング製品の需要が大幅に伸びるため、W-SCOPE KOREA CO., LTD. で保有する10本のコーティングラインに加え、WCPにおいても下期以降にかけて新規コーティングライン4本の据え付けを予定しております。

また、大手電池メーカーと2020年から5年間、合計約20億㎡のセパレータ供給について合意いたしました。これは当第1四半期より販売を開始した欧州等電気自動車用途でのリチウムイオン電池の需要が今後大幅に増加する見込みとなったことを受けての供給量合意となります。詳細につきましては、本日（2019年5月9日）公表いたしました「長期供給量合意に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、業績見通しの前提となる第2四半期連結累計期間以降の平均為替レートにつきましては引き続き、対1米ドル108.0円、対1,000韓国ウォン100.0円を想定しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,308	3,306
受取手形及び売掛金(純額)	2,156	2,331
商品及び製品	1,451	1,546
原材料及び貯蔵品	457	476
その他	459	538
流動資産合計	9,834	8,200
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	7,839	7,794
減価償却累計額	△913	△976
建物及び構築物(純額)	6,926	6,818
機械装置及び運搬具	22,908	27,870
減価償却累計額	△8,376	△8,957
機械装置及び運搬具(純額)	14,532	18,913
建設仮勘定	15,128	15,031
その他	540	942
減価償却累計額	△247	△273
その他(純額)	293	668
有形固定資産合計	36,880	41,432
無形固定資産		
その他	139	130
無形固定資産合計	139	130
投資その他の資産		
繰延税金資産	601	803
その他	40	50
投資その他の資産合計	642	854
固定資産合計	37,662	42,416
資産合計	47,496	50,616

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	169	259
短期借入金	6,987	7,280
1年内返済予定の長期借入金	3,531	4,067
未払金	1,212	2,221
未払法人税等	21	19
その他	151	250
流動負債合計	12,073	14,098
固定負債		
長期借入金	16,779	19,339
退職給付に係る負債	261	313
繰延税金負債	9	-
資産除去債務	483	483
その他	43	302
固定負債合計	17,578	20,438
負債合計	29,651	34,537
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,692	7,692
資本剰余金	7,638	7,638
利益剰余金	995	△285
自己株式	△0	△0
株主資本合計	16,326	15,045
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	1,486	1,002
その他の包括利益累計額合計	1,486	1,002
新株予約権	31	31
純資産合計	17,844	16,079
負債純資産合計	47,496	50,616

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年1月1日 至2018年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年3月31日)
売上高	2,136	2,601
売上原価	1,876	3,435
売上総利益又は売上総損失(△)	259	△833
販売費及び一般管理費	432	482
営業損失(△)	△172	△1,316
営業外収益		
受取利息	6	8
助成金収入	31	-
その他	3	1
営業外収益合計	41	9
営業外費用		
支払利息	47	72
為替差損	35	21
支払手数料	22	4
その他	1	0
営業外費用合計	107	98
経常損失(△)	△238	△1,404
特別利益		
新株予約権戻入益	8	-
特別利益合計	8	-
税金等調整前四半期純損失(△)	△229	△1,404
法人税等	△54	△202
四半期純損失(△)	△175	△1,202
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△175	△1,202

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)
四半期純損失(△)	△175	△1,202
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△1,767	△484
その他の包括利益合計	△1,767	△484
四半期包括利益	△1,942	△1,686
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,942	△1,686
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税金等調整前四半期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

なお、見積実効税率を合理的に見積もれない場合、税金計算については年度決算と同様の方法により計算し、繰延税金資産及び繰延税金負債については回収可能性等を検討した上で四半期連結貸借対照表に計上しております。

(会計方針の変更)

当社グループのIFRS適用子会社は、当第1四半期連結会計期間よりIFRS第16号「リース」(以下、IFRS第16号)を適用しております。IFRS第16号の適用にあたっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

本基準の適用が連結財務諸表に及ぼす影響は軽微であります。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

3. 補足情報

(1) 販売の状況

販売実績

当第1四半期連結累計期間における販売実績は、次のとおりであります。

事業部門の名称	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)	
	販売高(百万円)	前年同期比(%)
リチウムイオン二次電池用セパレータ	2,601	121.8
合計	2,601	121.8

(注) 1 当社及び連結子会社は、リチウムイオン二次電池用セパレータ事業の単一セグメントであるため、販売実績は、セグメント情報に関連付けた記載を省略しております。

2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)		当第1四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)	
	販売高(百万円)	割合(%)	販売高(百万円)	割合(%)
LG CHEM. グループ	1,009	47.3	1,030	39.6
Samsung SDIグループ	—	—	611	23.5
東北村田製作所グループ	290	13.6	494	19.0
東莞市旭冉電子有限公司 (Xuran Electronics Co., Ltd.)	470	22.0	—	—
EVE Energy Co., Ltd.	250	11.7	—	—

3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

4 東北村田製作所グループには、Murata Energy Device Wuxi Co., Ltd. 及びMurata Energy Device Singapore Pte. Ltd. を含んでおります。

5 前第1四半期連結累計期間のSamsung SDIグループについては、当該割合が100分の10未満であるため記載を省略しております。

6 当第1四半期連結累計期間のXuran Electronics Co., Ltd. 及びEVE Energy Co., Ltd. については、当該割合が100分の10未満であるため記載を省略しております。

(2) 設備投資の予想値

設備投資の予想値

会社名	事業所名 (所在地)	設備の 内容	投資予定額		資金調達 方法	着手年月	完了予定 年月	完成後 の増加 能力
			総額 (百万円)	既支払額 (百万円)				
W-SCOPE KOREA CO., LTD.	本社 (大韓民 国忠清北 道清州 市)	第7号～第 10号コーテ ィング生産 設備	3,638	2,449	自己資金 及び銀行 借入	2018年 6月	2020年 上期	加工生産 量約400 %増
W-SCOPE CHUNGJU PLANT CO., LTD.	本社 (大韓民 国忠清北 道忠州 市)	第11号生産 ライン	4,672	3,990	自己資金、増資 資金及び 銀行借入	2016年 10月	2019年 上期	生産量約 60%増
W-SCOPE CHUNGJU PLANT CO., LTD.	本社 (大韓民 国忠清北 道忠州 市)	第12号及び 第13号生産 ライン	9,806	5,591	自己資金、増資 資金及び 銀行借入	2017年 9月	2019年 下期	生産量約 60%増
W-SCOPE CHUNGJU PLANT CO., LTD.	本社 (大韓民 国忠清北 道忠州 市)	第14号及び 第15号生産 ライン	9,756	933	自己資金 及び銀行 借入	2018年 10月	2020年 下期	生産量約 60%増
W-SCOPE CHUNGJU PLANT CO., LTD.	本社 (大韓民 国忠清北 道忠州 市)	第11号～第 14号コーテ ィング生産 設備	4,694	1,576	自己資金 及び銀行 借入	2018年 9月	2020年 上期	加工生産 量約400 %増

- (注) 1 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
 2 当社の事業はリチウムイオン二次電池用セパレータ事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載はしておりません。
 3 「完成後の増加能力」については前連結会計年度末比にて記載しております。
 4 なお、前連結会計年度末において計画中であった主要な設備の新設について、完了したものは、次のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	設備の 内容	投資額 (百万円)	完了年月	完成後の 増加能力
W-SCOPE KOREA CO., LTD.	本社 (大韓民 国忠清北 道清州 市)	第5号及び第6号 コーティング生産 設備	932	2019年 3月	加工生産 量約200 %増
W-SCOPE CHUNGJU PLANT CO., LTD.	本社 (大韓民 国忠清北 道忠州 市)	第10号生産 ライン	6,347	2019年 2月	生産量約 60%増

- 5 「完成後の増加能力」については前連結会計年度末比にて記載しております。